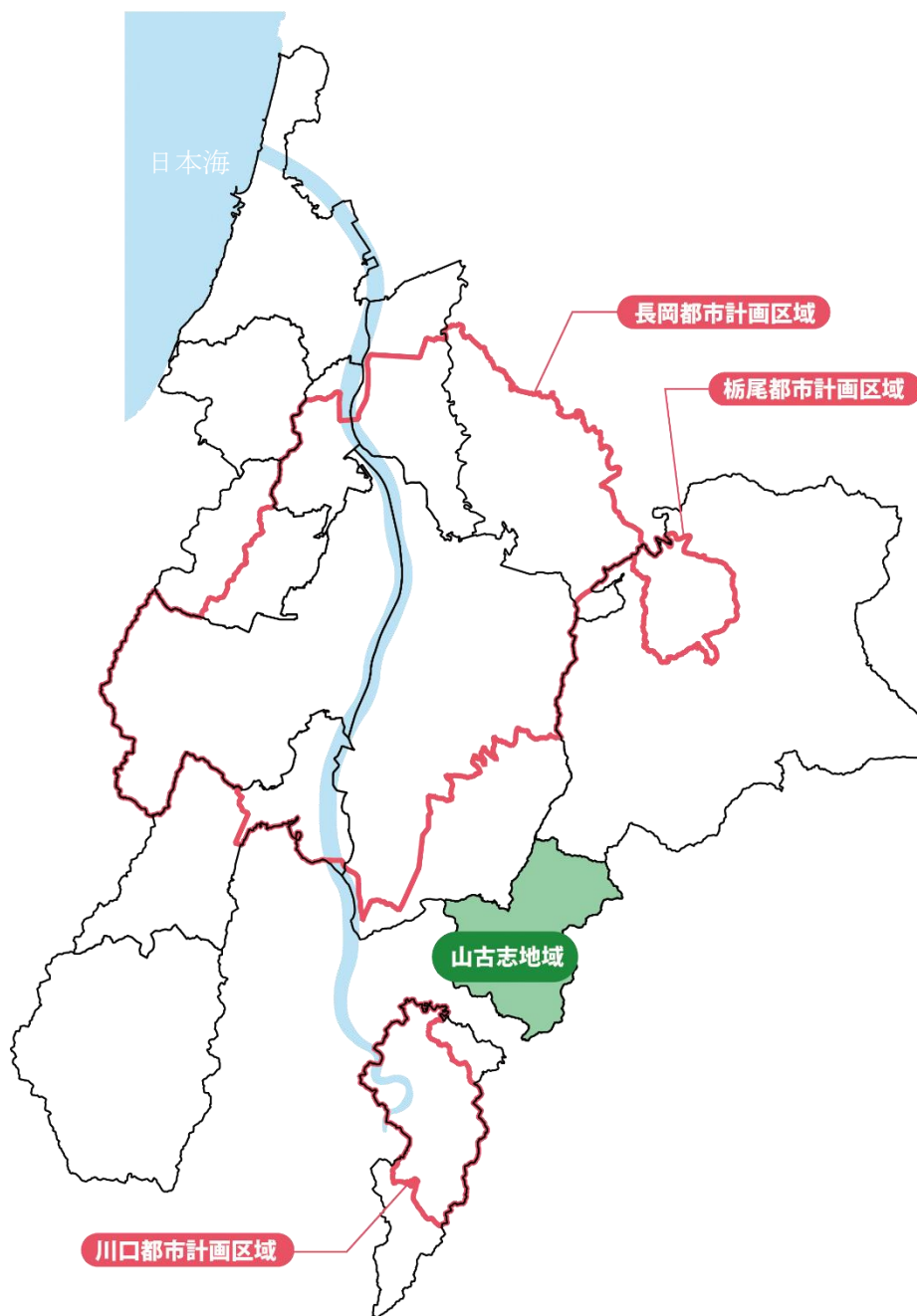


第8節 山古志地域



第8節

山古志地域

◀地域に関するデータ

(2020年4月住民基本台帳) ▶

- ・総面積： 39.8 km² (4.5%)
- ・総人口： 902人 (0.3%)
- ・世帯数： 402世帯 (0.4%)

※ () 内は市全体に占める割合

1 地域の現状

(1) 人口

- 地域人口は、2020年で902人。地域別人口増減(2009年～2019年)は、地域全体で29.8%の減少があり、今後も同様の傾向が続く見通しです。
- 集落が山あいの緩傾斜地や幹線道路沿いに点在しており、地域コミュニティの確保・維持が課題となっています。
- 高齢化率(65歳以上人口割合)は、2020年で約55%です。

(2) 産業

- 種芋原集落や虫亀集落などでは、東山連峰の傾斜地に棚田や棚池があり、稲作や日本有数の錦鯉の養鯉業を基幹産業としています。
- 2015年時点における経営耕地面積は110ha、農家戸数は111戸です。

(3) 土地利用

- 診療所や金融機関、体育館をはじめとした公共施設等の都市機能は、支所周辺に比較的まとまって立地しています。
- 集落の大半が土砂災害警戒区域に指定され、土砂災害特別警戒区域が散在しています。

(4) 生活基盤

- 地域の中央部を主要地方道柏崎高浜堀之内線が南北に縦断し、東西には国道291号や国道352号が配置され、地域住民の日常生活や産業振興を支える重要な路線となっています。また、国道352号の道路整備を促進し、地域間のアクセス性、安全性の向上を図っています。
- コミュニティバスの運行により、地域内の生活交通を維持しています。
- 水道は、簡易水道により、ほぼ全域に給水しています。下水道については、合併処理浄化槽で処理しています。

2 主な地域資源、地域の宝

- 特産品の米、かぐらなんばんなどの農産物をはじめ、棚田や棚池の風景、千年の歴史を有する国指定重要無形民俗文化財の「牛の角突き」、手掘りの道路トンネルとして日本最長の「中山隧道」があります。この他、中越地震の惨状を伝える「木籠集落の水没家屋」や「やまこし復興交流館 おらたる」などがあります。



甚大な被害を被ってなお、それを乗り越えて復旧・復興へと歩み続けている山古志を、写真や映像、プロジェクションマッピングなどで紹介。



特徴ある生活様式の現れである、棚田・棚池の景観。日本農業遺産に認定されており、地域ブランドの確立に向け情報発信に取り組む。



主要地方道栃尾山古志線沿道



牛の角突き

周囲を山で囲まれた山間丘陵地で、地域内のほとんどが傾斜地となっている。山あいの緩傾斜地や幹線道路沿いに集落が点在している。



錦鯉

図 3-8-1 ≪ 主な地域資源 山古志地域 ≫

(長岡地域の宝ポータルサイト、長岡市地域の宝磨き上げ事業成果報告書(2018年度)ほか)

3 地域の課題と地域づくりの方針

中越地震からの復興を通じた「交流・絆」の継続や市内観光資源との連携により、更なる交流人口の拡大を図るほか、拠点づくりと日常生活に必要な「地域の足」の確保、地域間連絡道路の整備などにより、地域住民が安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。

(1) 市内観光資源との連携強化による交流人口の拡大

山古志地域には、国指定重要無形民俗文化財の「牛の角突き」や選奨土木遺産に認定された歴史的建造物である「中山隧道」、海外バイヤーが買い付けに訪れる「錦鯉」などの地域資源があり、今後の地域づくりに活かす必要があります。

県外大学との交流機会を活かしながら、インフラツーリズムの展開や市内の観光資源とのネットワーク化を進め、広域観光のルートとしての山古志の魅力を発信するとともに、来訪者に地域の情報を発信し、交流人口の拡大を進めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・市内観光資源のネットワーク化 ・中山隧道を活用したインフラツーリズムの展開 ・来訪者に対する移動ツールの確保 ・農村景観（棚田・棚池）の保全・活用 <p style="text-align: right;">など</p>
------	--

(2) 支所と集落の結びつきの確保

地域の半数以上が高齢者であり、また、人口減少の傾向も続く見通しであることから、集落における日常的なコミュニティの維持は重要な課題となっています。このため、支所と集落の結びつきを強め、これまでの集落での暮らしを確保します。また、集落におけるコミュニティを維持する上で必要となる施設や活動、拠点のあり方について検討し、安心して暮らせる環境づくりを進めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・支所と集落の結びつきの確保・除雪ボランティアの確保・生活サービス施設の確保の検討 など
------	--

(3) 「地域の足」の確保

地域では賄えない、日常生活に必要なサービスを楽しむためには、地域での移動環境を確保し、充実させる必要があります。このため、自動車を運転しない住民や高齢者が、地域で安心して暮らし続けられるように、日常生活に必要な買い物送迎サービスの継続やコミュニティバスの運行支援に取り組みます。併せて、運行ルートの見直しを検討し、より多くの住民の足となるよう利便性の確保を図ります。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・共助による買い物送迎サービス等の確保・維持・コミュニティバスの運行維持と運行見直しによる利便性の確保
------	--

(4) 災害時の集落の孤立化を招かないインフラ整備

中越地震では、地域を結ぶ全ての道路が寸断され、集落の孤立化を招き、自衛隊ヘリによる全村避難を余儀なくされました。また、集落の大半が特別豪雪地帯及び土砂災害警戒区域に指定されています。このため、土砂災害への対応のほか、冬期間においても安全・安心に暮らせるように、除雪体制を維持し、山古志種芋原から竹之高地間における国道 352 号道路整備を促進します。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・地域特性に応じた除雪体制の維持・国道 352 号道路整備の促進（山古志種芋原～竹之高地町）
------	---

地域づくりの方針図 山古志地域

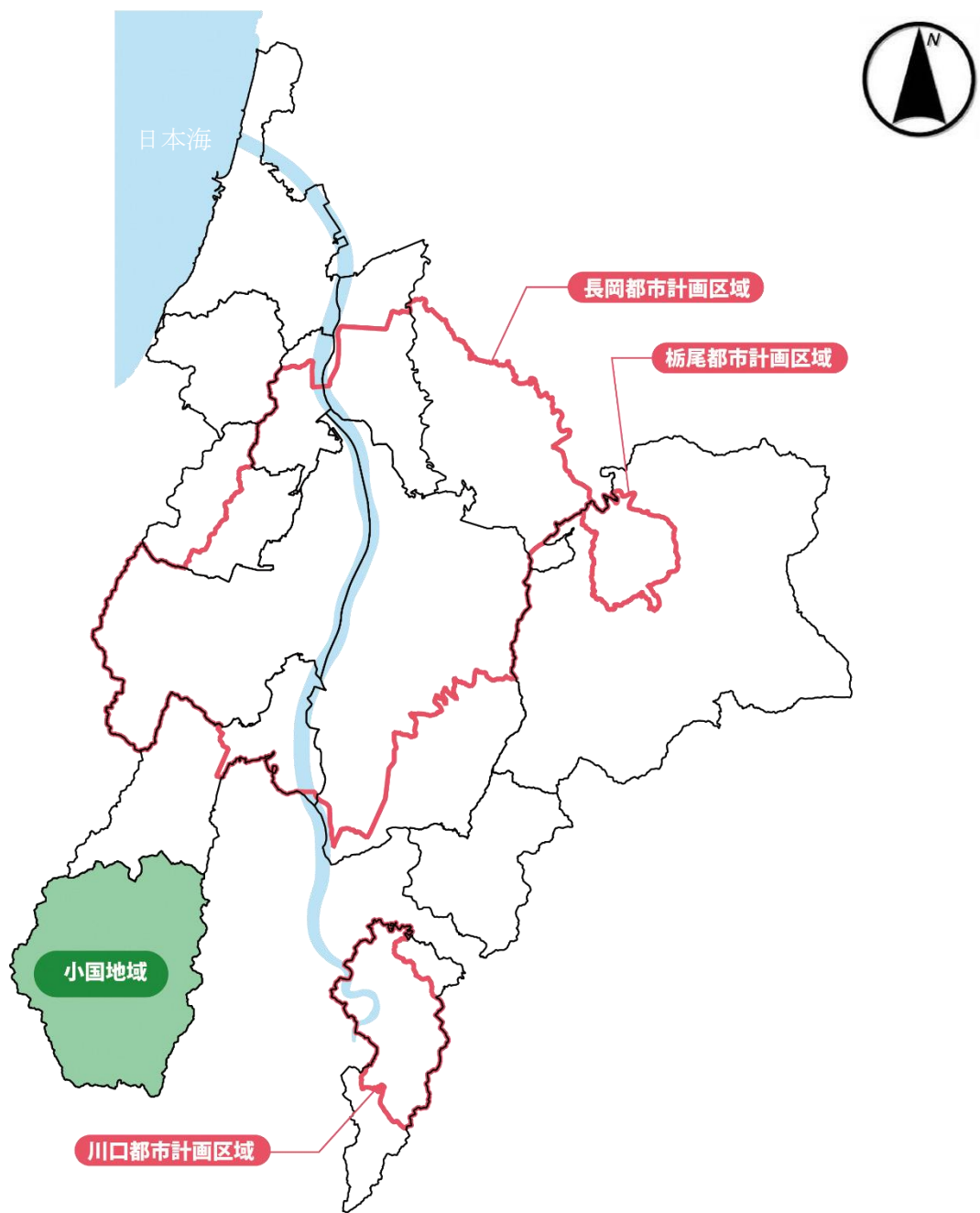


図 3-8-2 ≪地域づくりの方針図 山古志地域≫



おぐりん

第9節 小国地域



第9節

小国地域

◀地域に関するデータ

(2020年4月住民基本台帳) ▶

- ・総面積： 86.2 km² (9.7%)
- ・総人口： 4,976 人 (1.9%)
- ・世帯数：1,989 世帯 (1.8%)

※ () 内は市全体に占める割合

1 地域の現状

(1) 人口

- 地域人口は、2020年で4,976人。地域別人口増減(2009年～2019年)は、地域全体で21.1%の減少があり、今後も同様の傾向が続く見通しです。
- 国道404号沿線(武石、七日町地区)や国道403号と交差するコミュニティセンター周辺(新町、相野原地区)に人口が集積しています。日常生活に必要なサービス機能を維持・確保し、人口密度を高める必要があります。
- 高齢化率(65歳以上人口割合)は、2020年で約46%です。

(2) 産業

- 地域における従業者数は、2016年で1,439人。国道403号、国道404号沿いに4か所の工業団地(太郎丸、七日町、原小屋、桐沢)が整備され、鉄工や食品加工などの企業が立地し、就業の場を形成しています。建設業と製造業で従業者割合の約4割を占めています。
- 傾斜地に小規模な農地が多数あり、農業の担い手の不足により耕作放棄地が増加しています。
- 2015年時点における経営耕地面積は733ha、農家戸数は349戸です。

(3) 土地利用

- 中央部を渋海川が流れ、東部を関田山系、西部を八石山系の山なみが連なり、その山あいの平地部に田園が広がり、山裾に集落が点在しています。また、国道404号沿線に市街地が形成されているものの、その市街地内にある「はなのか団地」には未分譲地がありません。
- 診療所や商業施設、集会場をはじめとした公共施設等の都市機能は、コミュニティセンター周辺に比較的まとまって立地しています。
- 関田山系、八石山系の山間地に広範囲な土砂災害警戒区域が指定され、土砂災害特別警戒区域が散在しています。

(4) 生活基盤

- 国道403号、国道404号、主要地方道柏崎小国線や県道塚山小国線が南北に縦断しています。東西には国道291号が横断し、小千谷市や柏崎市の都市機能と繋がり、地域住民の日常生活や産業振興を支える重要な路線となっています。
- 公共交通として路線バスが運行され、長岡や越路地域、小千谷市と連絡しています。また、地域内において国道403号を軸にコミュニティバスが運行され、山間部の主要な集落を結んでいます。
- 国道403号、国道404号沿いの2つの医療機関が、地域において必要な医療を提供しています。
- 上水道(簡易水道等含む)は、ほぼ全域に給水しています。下水道については、汚水処理が概成しています。

2 主な地域資源、地域の宝

- 地域の宝として、国や県無形文化財に指定された小国和紙のほか、約 83ha の面積を有する「おぐに森林公園」があります。
- 地域資源として、特産品の「八石米」、「八石なす」、ぎんなんを活用した加工食品、「木喰仏 立木観音」や「相野原観音堂」、「小国澤城址」、「山口庭園・資料館」などの文化財や史跡があります。



伝統的な技法で漉いた紙を雪の中に保存する。国では無形文化財の記録選択に、新潟県では無形文化財に指定している。

約 83ha の敷地に広がる癒しの林間広場。自然を活かし、音楽を通して人々が交流し、楽しめるイベントなどを実施。



図 3-9-1 ≪主な地域資源 小国地域≫

(長岡地域の宝ポータルサイト、長岡市地域の宝 磨き上げ事業成果報告書(2018 年度)ほか)

3 地域の課題と地域づくりの方針

地域の宝である「おぐに森林公園」の再整備や都市と農村の交流を促進し、地域活性化と交流人口の拡大を図るほか、冬期間の道路交通の確保や土砂災害防止工事の促進などにより、中山間地域における安全・安心な暮らしを確保します。

(1) おぐに森林公園の再整備による地域活性化

おぐに森林公園は、広大な敷地内にキャンプサイトやバーベキュー場、日帰り入浴施設などの多様な施設を備えています。近年は、トレイルランニングなどのイベント開催等を契機として利用者が増加しており、地域振興の核としての役割が期待されています。

施設利用者のニーズに合わせた必要な整備を行うとともに、民間事業者や地元団体と連携し、当該施設を核とした取組で地域活性化を目指します。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・おぐに森林公園の再整備 ・民間事業者や地元団体と連携した公園内施設の更なる活用の促進 など
------	---

(2) 冬期間の道路交通の確保

特別豪雪地帯に指定された地域であるため、冬期間における日常生活、産業活動を支障なく行うには、道路空間を常に安全な状態に保つことが求められます。このため、機械除雪が円滑に行えるよう主要幹線道路の除雪を効果的に行うとともに、消雪施設の老朽化に対しても計画的な更新を進めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・国道 291 号道路改良工事の促進・消雪施設の計画的な更新・道路ネットワークを重視した効率的な除雪の検討 など
------	--

(3) 高齢者が安心して暮らせる環境づくり

高齢化率が高いため、高齢者や自動車を運転しない住民に対する移動環境の確保が課題となっています。このため、ICT を活用した見守りや、集会場機能の確保・維持、地域内の拠点までの「地域の足」の確保を図り、高齢者が安心して暮らるような環境づくりを進めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・ICT を活用した高齢者の見守りの検討・よったかり場の確保・維持・コミュニティバスの運行維持と運行見直しによる利便性の確保 など
------	---

(4) 都市と農村の交流人口の拡大

小国地域は友好都市である東京都武蔵野市と定期的に交流を続けています。今後もこれら他都市との繋がりを継続するとともに、交流人口の更なる拡大が求められています。

ゆかりある団体との連携によりグリーン・ツーリズムの受け入れを促進し、交流人口の拡大を目指すとともに、小国地域の農業振興に資する販路拡大を目指します。また、未利用施設や空き家等を活用した定住促進とサテライトオフィスの誘致などを図ります。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・グリーン・ツーリズムの受け入れの促進・はなのか団地の分譲促進と活用の検討・未利用施設や空き家等を活用した定住促進とサテライトオフィスの誘致 など
------	---

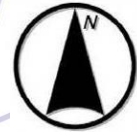
(5) 災害に強いまちづくり

地勢上、広範囲に土砂災害警戒区域等が存在していることから、南北に縦貫する国道 403 号、国道 404 号、東西に横断する国道 291 号が土砂災害により分断されると、地域全体が孤立化する恐れがあり、課題となっています。

災害から住民の生命・財産を守り、迅速な復旧が可能となるよう、災害に強いまちづくりを進めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・土砂災害防止工事の促進（武石地区）・消防庁舎、災害用ヘリポートの整備推進 など
------	---

地域づくりの方針図 小国地域



土地利用		凡例	
	近隣型商業集積地		うるおい住宅地
	工業・業務集積地		農村集落地
	レクリエーション交流地		農地
	行政等施設		山林・河川敷
	教育・文化・スポーツ施設		学校
	その他の公共施設		その他の公共施設
	地域界		

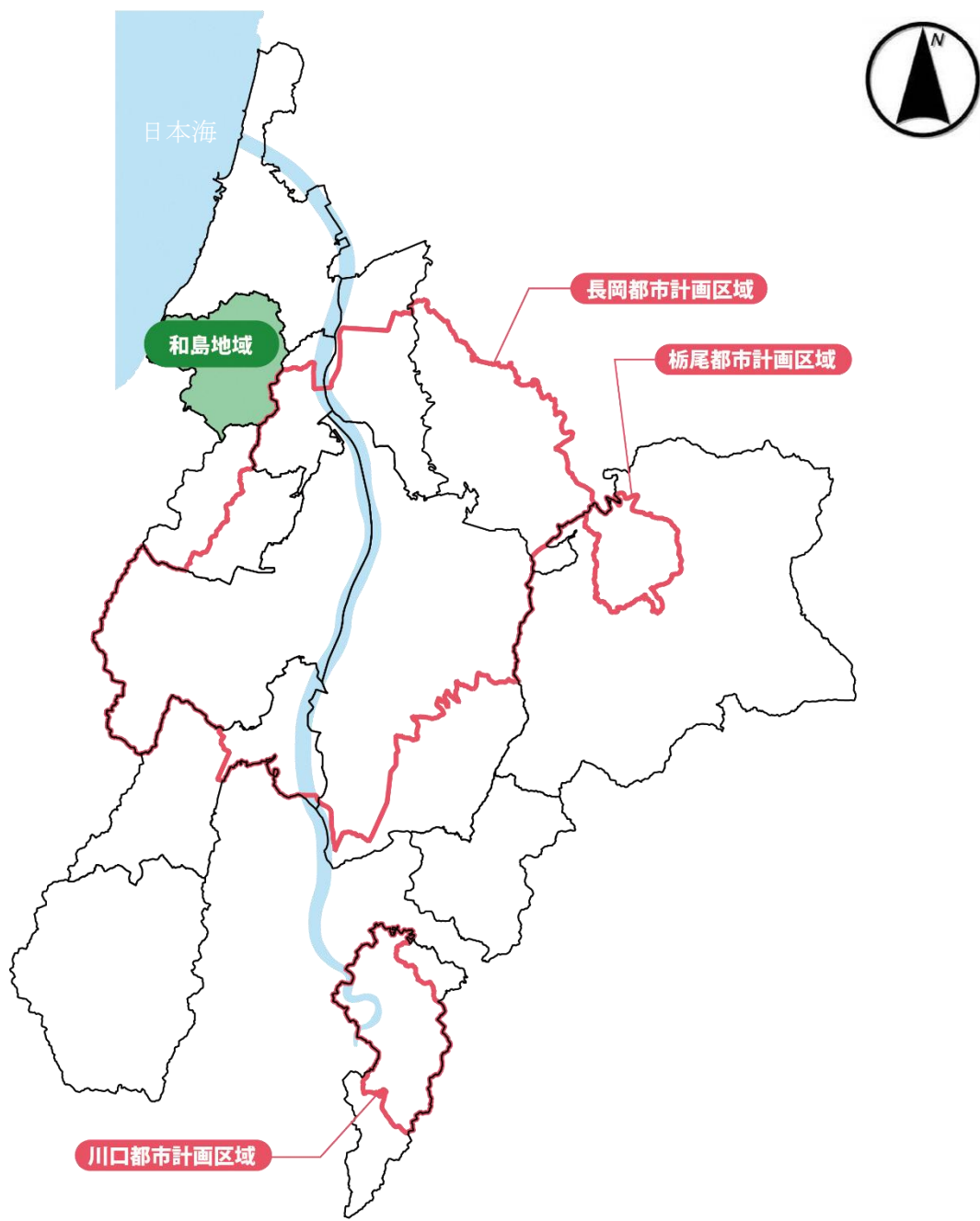
道路 (現状)		道路 (計画・整備を検討する路線)	
	主要幹線道路		主要幹線道路
	都市内幹線道路		都市内幹線道路
	バスネットワーク		
	河川 (現状)		河川 (計画・整備を促進)
			整備・検討を進める箇所

図 3-9-2 ≪地域づくりの方針図 小国地域≫



なら王わし麻呂

第10節 和島地域



第 10 節 和島地域

◀地域に関するデータ

(2020 年 4 月住民基本台帳) ▶

- ・ 総面積： 31.9 km² (3.6%)
- ・ 総人口： 3,897 人 (1.5%)
- ・ 世帯数： 1,319 世帯 (1.2%)

※ () 内は市全体に占める割合

1 地域の現状

(1) 人口

- 地域人口は、2020 年で 3,897 人。地域別人口増減 (2009 年～2019 年) は、地域全体で 16.8%の減少があり、今後も同様の傾向が続く見通しです。
- JR 小島谷駅周辺や島崎地区に人口が集積しています。日常生活に必要なサービス機能を維持・確保し、人口密度を高める必要があります。
- 高齢化率 (65 歳以上人口割合) は、2020 年で約 39%です。

(2) 産業

- 地域における従業者数は、2016 年で 1,641 人です。国道 116 号沿いの両高地区には菓子製造工場が立地し、就業の場を形成しています。製造業の従業者割合が約 4 割を占めています。
- 2015 年時点における経営耕地面積は 745ha、農家戸数は 163 戸です。

(3) 土地利用

- 国道 116 号沿道には商業施設や工場、観光施設が立地しています。
- 診療所や金融機関、体育館をはじめとした公共施設等の都市機能は、JR 小島谷駅や支所周辺に比較的まとまって立地しています。
- JR 越後線沿いの平野部市街地内の大部分が信濃川等の洪水浸水想定区域に、谷戸沿いに広範囲な土砂災害警戒区域が指定され、土砂災害特別警戒区域も散在しています。

(4) 生活基盤

- 国道 116 号や主要地方道により長岡地域や寺泊地域などと繋がっています。
- 公共交通として鉄道 (JR 小島谷駅、妙法寺駅) と路線バスが運行されています。バス路線が JR 小島谷駅と与板地域を結ぶ県道与板北野線沿線に限定されています。このため、地域全域を対象に、地域が主体となった生活交通の検討が始まっています。
- 上水道は、ほぼ全域に給水しています。下水道については、汚水処理が概成しています。

2 主な地域資源、地域の宝

- 良寛終焉の地として、良寛の墓やゆかりの史跡が点在しており、その他にも歴史的資源が数多く残されています。「良寛・貞心尼とはちすば通り」や、越後鉄道 (現在の JR 越後線) の創始者である久須美家の邸宅であった「住雲園」が地域の宝です。
- その他地域資源として、村岡城址や国指定史跡八幡林官衙遺跡、古民家を移築した「道の駅 良寛の里わしま」や廃校した小学校をリノベーションしたレストラン、海が眺望できる「和島オートキャンプ場」などがあります。



図 3-10-1《主な地域資源 和島地域》

(長岡地域の宝ポータルサイト、長岡市地域の宝
磨き上げ事業成果報告書(2018年度)ほか)

3 地域の課題と地域づくりの方針

良寛を核とした観光振興を他市との広域連携により推進し、交流人口の拡大を図るほか、日常生活に必要な「地域の足」の確保や市民活動の場づくり、水害に対する取組の推進などにより、地域内人口の維持を図ります。

(1) 観光資源を活かした交流人口の拡大

和島地域には、「はちすば通り」をはじめとした良寛ゆかりの史跡や道の駅などの観光資源が多数あるものの、近年は、良寛を目的とした観光客は減少傾向にあります。一方、和島オートキャンプ場など体験型施設は人気が高く、毎年リピーターが訪れています。このため、観光ニーズを捉えるとともに、歴史的な繋がりがある他市との共同PRや、地域内における観光資源の連携に取り組み、交流人口の拡大を目指します。

<p>主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良寛を核とした観光振興策の検討 ・道の駅やオートキャンプ場など、地域内観光資源の連携促進 ・はちすば通りや国指定史跡八幡林官衙遺跡など、観光資源の周知・PR ・旧桐島小学校の学校跡地、和島小学校調整池の有効活用の検討 など
-------------	---

(2) 「地域の足」の確保

バス路線が JR 小島谷駅と与板地域を結ぶ県道与板北野線沿線に限定されていることから、公共交通空白地が発生し、住民の移動手段の確保が課題となっています。このため、デマンド型乗合タクシーなどの地域特性に応じた「地域の足の確保」を検討します。

主な取組	・デマンド型乗合タクシーなど地域特性に応じた「地域の足の確保」の検討 ・JR 小島谷駅の利便性向上の検討 など
------	--

(3) 公共施設の集約化に伴う環境整備

老朽化した寺泊斎場及び与板無憂苑斎場に代わり、二つの施設を集約・統合した新たな斎場として、「北部斎場（仮称）」の建設が和島地域で予定されています。建設予定地周辺では、地域コミュニティの場づくりを検討します。

主な取組	・荒巻集落センターの建替支援 など
------	-------------------

(4) 水害に強いまちづくり

平野部市街地の大部分が洪水浸水想定区域に指定されていることから、浸水被害の軽減をはじめとした水害への対応が課題です。地域を南北に流れる下富岡川の河川整備の推進や荒巻川流域の浸水対策の検討により、治水安全度を高め、頻発・激甚化する豪雨災害から市民の生命、財産を守ります。

主な取組	・下富岡川の河川整備の推進 ・荒巻川流域の浸水対策の検討 など
------	------------------------------------

(5) 市民活動の場づくり

和島地域では、各集落において継続的に高齢者を対象とした「サロン」が開催されるものの、活動に携わるボランティアの高齢化や発掘が課題となっています。住民が主体的にまちづくりに関われるよう、地域活動の拠点となるコミュニティセンターの開設や支援体制などについて検討します。

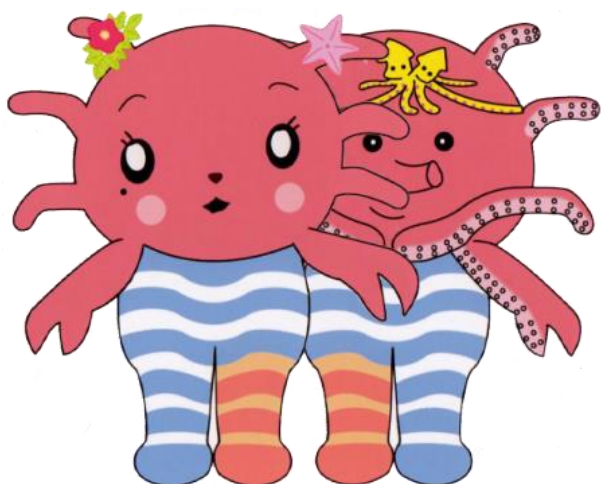
主な取組	・コミュニティセンターのあり方の検討 ・NPO 団体やまちづくり団体の活動支援 など
------	---

地域づくりの方針図 和島地域



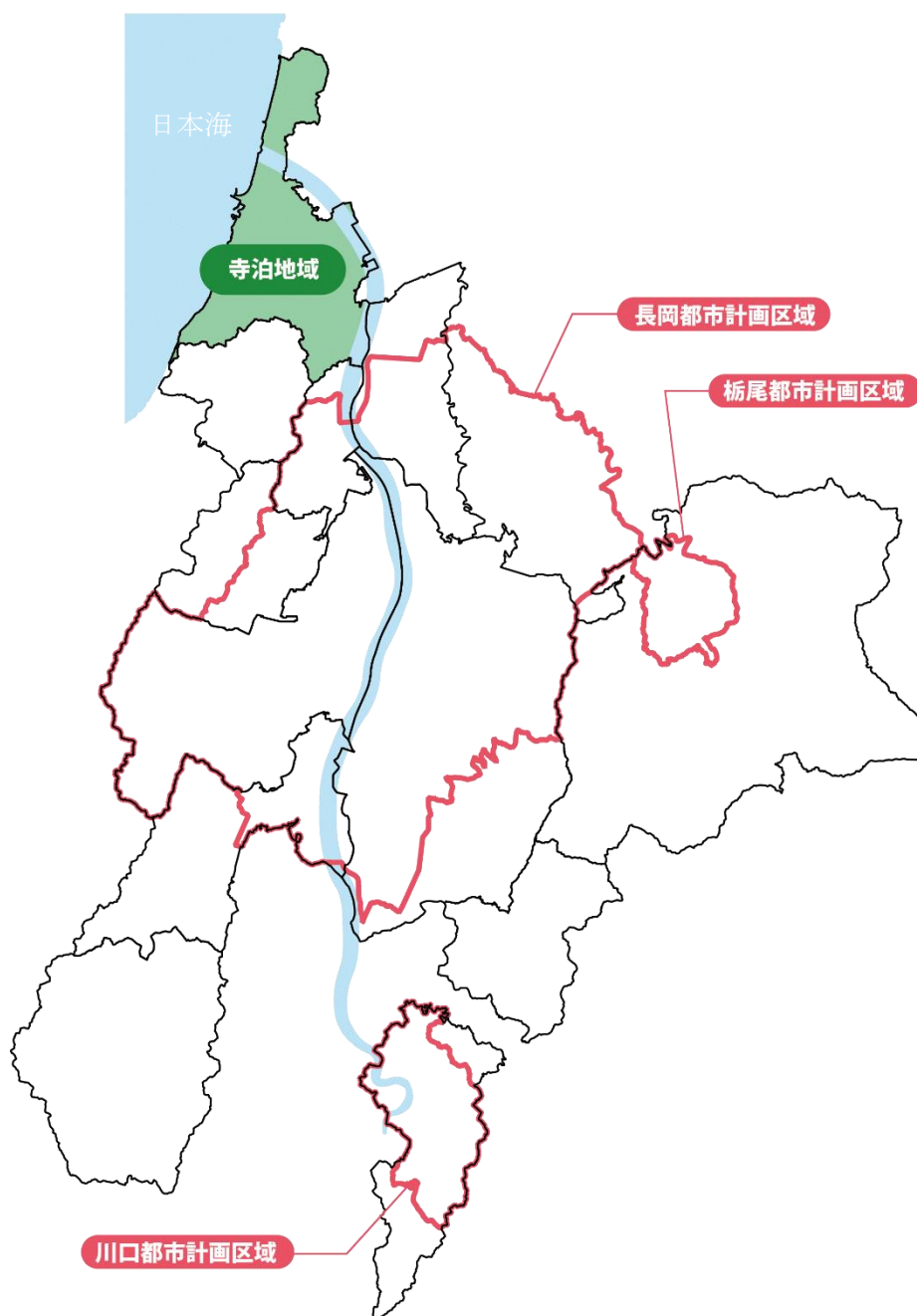
土地利用		凡例		道路 (現状)		道路 (計画・整備を検討する路線)	
	近隣型商業集積地		にぎわい住宅地		主要幹線道路		主要幹線道路
	工業・業務集積地		農村集落地		都市内幹線道路		都市内幹線道路
	高次文化交流地		農地		バスネットワーク		
	レクリエーション交流地		山林・河川敷		河川 (現状)		河川 (計画・整備を促進)
	行政等施設		整備・検討を進める箇所				
	教育・文化・スポーツ施設						
	学校						
	地域界		在来線				

図 3-10-2 《地域づくりの方針図 和島地域》



海の妖精まりん

第 11 節 寺泊地域



第 11 節 寺泊地域

◀地域に関するデータ

(2020 年 4 月住民基本台帳) ▶

- ・総面積： 58.2 km² (6.5%)
- ・総人口： 9,038 人 (3.4%)
- ・世帯数：3,313 世帯 (3.1%)

※ () 内は市全体に占める割合

1 地域の現状

(1) 人口

- 地域人口は、2020 年で 9,038 人。地域別人口増減 (2009 年～2019 年) は、地域全体で 18.1%の減少があり、今後も同様の傾向が続く見通しです。
- 国道 402 号の魚の市場通り周辺 (上田町、坂井町地区) や JR 寺泊駅周辺 (竹森地区) に人口が集積しています。日常生活に必要なサービス機能を維持・確保し、人口密度を高める必要があります。
- 高齢化率 (65 歳以上人口割合) は、2020 年で約 38%です。

(2) 産業

- 地域における従業者数は、2016 年で 3,735 人。大河津工業団地では建設業や機械・金属加工などの製造業が盛んです。卸売業・小売業と製造業で従業者割合の約 5 割を占めています。
- 魚の市場通りほか海岸線沿いに観光産業が定着し、年間約 225 万人の観光客が訪れています。
- 2015 年時点における経営耕地面積は 1,230ha、農家戸数は 427 戸です。内陸部 (本山、夏戸、大河津、山ノ脇地区) に広がる農地では、継続的にほ場整備事業が実施され、農業経営の効率化・安定化を進めています。

(3) 土地利用

- JR 寺泊駅周辺には住宅団地及び大河津工業団地が整備され、職住が近接した市街地が形成されています。また、大河津地区の国道 116 号沿道には商業施設が立地し、地域の日常的な買物需要を支えています。
- 海岸部の寺泊地域や野積地域では木造住宅が密集して立地し、空き家や空き地も発生しています。
- 商業施設や金融機関、体育館をはじめとした公共施設等の都市機能は、魚の市場通りや国道 116 号と主要地方道長岡寺泊線の交差点周辺に比較的にまとまって立地しています。
- 沿岸部の一部の市街地が津波災害警戒区域に、JR 越後線沿いの平坦部の大部分が信濃川等の洪水浸水想定区域に指定されています。更に沿岸部後背の崖地に広範囲な土砂災害警戒区域が指定され、土砂災害特別警戒区域も散在しています。

(4) 生活基盤

- 国道 402 号が南北を縦貫しており、国道 116 号ほか主要幹線道路により長岡地域や燕市と繋がっています。また、魚の市場通りの交通渋滞の解消を図るため、橋りょうを含む新たな道路整備が検討されています。
- 公共交通として鉄道 (JR 寺泊駅、桐原駅) と路線バスが運行されています。バス路線が主要地方道長岡寺泊線と国道 402 号に限定されているため、地域の一部で公共交通空白地が発生しています。
- 上水道は、ほぼ全域に給水しています。下水道については、汚水処理普及率が 50.8%と

低いため、重点的に整備を進めています。

2 主な地域資源、地域の宝

- 市内で唯一の海岸線を有し、古くは北前船の寄港地、北国街道の宿場町として栄えた歴史的経緯から、地域の宝は「海洋資源」と「寺泊歴史街道」です。
- その他、寺泊水族博物館やトキみ〜てなど市内有数の観光資源を有しています。



図 3-11-1 ≪主な地域資源 寺泊地域≫

(長岡地域の宝ポータルサイト、長岡市地域の宝
磨き上げ事業成果報告書(2018 年度)ほか)

3 地域の課題と地域づくりの方針

歴史・観光資源の整備や近隣観光資源・活動団体との連携により、観光産業の更なる発展を図るほか、災害に備えた防災対策や「地域の足」の確保、下水道整備を推進し、地域住民が安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。

(1) 観光産業を支援する基盤整備の推進

寺泊地域では、魚の市場通りをはじめとした観光資源の多くが海岸線を縦貫する国道 402 号沿いにあります。特に魚の市場通り周辺は、観光客が安全・快適に観光を楽しめるような取組のほか、観光地としての更なる活用が求められています。

国道 402 号や旧北国街道などの歴史的街なみの整備を推進し、魚の市場通り周辺の環境改善と近隣観光資源間の連携を図り、観光客の増加、滞在時間の延長を目指します。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・国道 402 号バイパスの整備促進 ・市道寺泊 32 号・34 号線（旧北国街道）の整備 ・ロマンス街道、汐見台の整備 ・魚の市場通りの環境改善（トイレ整備、誘導標識等） ・近隣観光資源、地元団体との連携の促進 ・寺泊海岸に広がる国有地の活用方策の検討 など
------	---

（２）災害に強いまちづくり

寺泊地域は、日本海に面する南北 16km に及ぶ海岸部と、その背後に広がる丘陵地、水田地帯で形成されています。そのため、沿岸部の一部の市街地が津波災害警戒区域に、更に沿岸部後背の崖地が土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域に指定されるなど、複合災害に備えたまちづくりが求められています。

避難誘導標識をはじめとしたハード整備とともに、ハザードマップの周知や避難体制の構築、避難訓練の実施などのソフト対策を組み合わせ、観光客や住民、要支援者の生命と財産を守る取組を進めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・大河津分水路、矢田川の改修工事の促進 ・新野積橋の整備促進 ・地滑り防止対策工事の促進 ・木造住宅密集市街地における防火性能を高める方策の検討 ・観光客にも配慮した避難誘導標識の設置 ・災害を想定した避難体制の構築と訓練の実施 など
------	--

（３）「地域の足」の確保

寺泊地域では、国道 116 号により燕市との往来が活発であり、特に医療や商業などの都市機能の活用面において、結びつきが強くなっています。鉄道駅はあるものの、バス路線が国道 402 号、主要地方道長岡寺泊線に限定されていることから、公共交通空白地が発生し、住民の移動手段の確保が課題となっています。

デマンドタクシーなどの地域特性に応じた「地域の足の確保」について検討するとともに、JR 寺泊駅では公共交通の利用環境を高めるため、ロータリーや駐車場、駐輪場の整備を行い、パークアンドライドを推進します。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 寺泊駅前広場の整備（ロータリー、駐車場、駐輪場） ・デマンド型乗合タクシーなど地域特性に応じた「地域の足の確保」の検討 など
------	---

（４）汚水処理環境の向上

汚水処理計画に基づき整備を進めているものの、汚水処理普及率は 50.8% と低いため、早期の整備が求められています。引き続き、汚水処理普及率の向上を目指し、重点的に整備を進めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道の整備推進
------	---



図 3-11-2 《地域づくりの方針図 寺泊地域》

